研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
C-540	C-141	21-335	慶應義塾大学　加藤眞三

題名（原題／訳）

The role of preoperative psychosocial counselling on the improvement of the recipient compliance and speed of recovery after liver transplantation - A systematic review of the literature and expert panel recommendations

肝移植後のレシピエントのコンプライアンスと回復速度の改善に対する術前心理社会的カウンセリングの役割 － 文献の系統的レビューと専門家委員会の推奨事項

執筆者

Emmanuel Weiss [1], Gokhan Kabacam [2 3], Lucy Gorvin [4], Michael Spiro [5 6], Dimitri Aristotle Raptis [6 7], Onur Keskin [8], Susan Orloff [9], Jacques Belghiti [10]

掲載誌

Clin Transplant. 2022 Mar 6;e14632. doi: 10.1111

キーワード	PMID
禁酒、慢性疼痛、コンプライアンス、カウンセリング、肝移植、術前、心理評価、ストレス	35253275

要　旨

背景　不安から重度精神疾患や活動的アルコール/薬物乱用に至るような心理社会的障害は、肝移植候補者に頻繁に見られ、移植後の転帰を悪化させる可能性がある。したがって、肝移植後の成功を最適化するために、心理社会的評価は必須である。しかし、この評価をどのように行うか、どのような介入が必要か、そして、それらが患者の転帰にどのような影響を及ぼす可能性があるかは、不明である。

目的　1.心理社会的評価が予後不良のリスクを予測するのに役立つかどうかを調査する。　2 心理社会的介入がこれらのリスクを軽減し、移植後の転帰、特にコンプライアンスと回復速度を改善しうるかどうかを調査する。

データソース：Ovid MEDLINE, Embase, Scopus, Google Scholar, and Cochrane Central.

方法　PRISMA ガイドラインに従ったシステマティックレビューと、国際専門家委員会から得られた GRADE アプローチを用いた推奨を用いた。プロトコルは PROSPERO CRD42021238361 に登録された。評価した主なアウトカムは、死亡率、アルコール再摂取、拒絶反応、服薬コンプライアンスであった。

結果　観察的比較研究 5 件、観察的非比較研究 10 件を含む 15 件の研究が分析された。肝移植候補者の術前心理社会的評価は、治療計画への高い適合性（すなわち、治療への高いアドヒアランスと低いアルコール再摂取）および低い拒絶反応率と関連していた。いくつかの研究では、評価の指針として心理社会的評価ツールが用いられたが、その予測能力については議論が残っており、単独で用いるべきでない。ほとんどの介入はアルコール関連の問題を抱える患者を対象に研究されている。その中で、専門チームによる支援は、特に移植後のアルコール摂取再発の減少を通じて、移植後の転帰の改善と関連していた。

結論　術前の心理社会的評価は、特に治療計画との一致という点で、移植後の転帰が悪くなるリスクが高い患者を検出するために行われるべきである（QoE；低、Grade of ecommendation；強／賛成）。専門家は、可能であれば、術前の心理学的評価と治療計画の一致を改善することを目的とした介入を同時に行うことが、肝移植の成功によい影響を与えることを示唆している。(エビデンスの質；非常に低い｜推奨のグレード；強い／賛成)。